

東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ【第4弾】

～ビジネスエリア3駅の「駅デザイン」と
新橋駅「幻のホーム活用アイデア」の2部門をお客様から公募します～

G 銀座線すべての駅を5つのエリアコンセプトに沿ってリニューアル
あなたのアイデアが駅を創る 2022年度完成予定

東京メトロ(本社:東京都台東区 社長:奥 義光)では、2017年に銀座線開業90周年を見据え、銀座線全駅のリニューアルを進めるため、2012年12月から、銀座線の魅力向上に寄与する様々なアイデアを公募するデザインコンペを実施しています。

このたび、前回の銀座駅に引き続き、**第4弾として、ビジネスエリアの新橋、溜池山王、赤坂見附の3駅を対象に、お客様から広くデザインとアイデアを公募する「東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ」を開催します。**

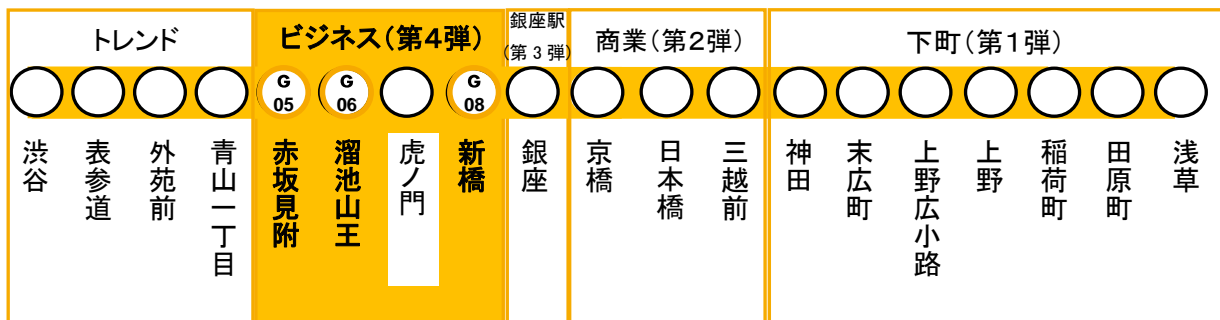
今回のコンペでは、駅のデザインを公募する【**駅デザイン部門**】と新橋駅【**幻のホーム活用アイデア部門**】の2部門を設け、沿線にお住まいのお客様をはじめ皆様から多様なアイデアを広く募集します。

【**駅デザイン部門**】では、新橋、溜池山王、赤坂見附の3駅の駅デザイン、望ましいユーザー経験を、【**幻のホーム活用アイデア部門**】では、新橋駅に存在する「幻のホーム」の空間活用方法について、皆様から斬新でユニークなアイデアの募集を行います。



新橋駅「幻のホーム」

駅デザインコンペの詳細は、別紙のとおりです。皆様のご応募をお待ちしております。



※虎ノ門はビジネスエリアに含まれますが、今回のデザインコンペ対象外としています。



【第3弾】銀座駅最優秀作品



【第2弾】商業エリア最優秀作品



【第1弾】下町エリア最優秀作品

「東京メトロ 銀座線 ビジネスエリア 駅デザインコンペ」

【駅デザイン部門】概要

【提案対象駅】

東京メトロ銀座線 ビジネスエリア(新橋駅・溜池山王駅・赤坂見附駅)

【提案課題】

- 1) 駅における望ましい経験・駅のあり方
- 2) 駅の個性とともに、機能性を備えたプラットフォームに関するデザイン提案
- 3) 駅の顔である改札口周りのデザイン提案
- 4) 地上と地下をつなぐ上家のデザイン提案

【重視すべき視点】

- ・ ビジネスエリアらしいユーザー像の具体化と望ましい経験の提案
- ・ 望ましい経験を実現する駅デザインの提案
- ・ 銀座線に関するコンセプトのデザインへの反映
- ・ 周辺地域の歴史、地域性との調和を考慮したデザイン
- ・ 銀座線ラインカラー（参考：DIC カラーガイド 163 番）のデザインへの反映
- ・ 効果的な照明デザイン
- ・ デザイン提案（意匠、材料等）の具体性
- ・ ビジネスエリアの街との相乗効果や連携

【応募資格】

東京メトロの要望に応じて、速やかに東京都心部に来ることができ、かつ日本語で対応できる態勢を整えている者

※複数名(個人または法人等)によるグループとして応募することも可能です。その場合は、代表者を1名定め、その他を共同制作者として下さい。

※1グループは4人までとします。

※年齢、国籍、資格、経験等は問いません。

※審査委員、審査委員が主宰または役員・顧問として関係する団体等に所属する者及び東京メトロ(グループ会社を含む)に勤務する者は応募できません。

※当部門の応募は1人(1グループ)につき1作品とし、複数の作品を応募することはできません。

【申込・提出方法】

下記の「お問い合わせ先」に記載されているコンペ公式ホームページ上にて必ず事前登録してください。また、作品の提出方法等についてもコンペ公式ホームページ上の募集要項をご確認ください。

【申込開始時期】

2015年10月28日(水)

【賞金】

- ・最優秀賞（1点）：50万円
- ・優秀賞（1～2点）：30万円
- ・入選（数点）：10万円
- ・特別賞（数点）：10万円

※最優秀賞及び優秀賞には上記賞金のほか副賞として賞品があります。

※特別賞は、最優秀賞・優秀賞・入選を受賞された応募者を除き選定します。

※特別賞は、「望ましい経験」や「ユーザー像の設定」は秀逸であるが、駅デザインに十分に展開出来ていない作品や、照明デザイン、グラフィックデザインなど一部のデザインが秀逸である作品等を対象とします。

※賞金にかかる税金は入賞者に負担していただきます。

【審査委員会】

- ・委員長 山村 明義（東京メトロ 専務取締役・鉄道本部長）
- ・副委員長 紺野 登（多摩大学大学院教授 兼 知識イノベーション研究所 代表）
- ・副委員長 野焼 計史（東京メトロ 取締役・改良建設部長・工務部担当）
- ・委員 松下 美紀（松下美紀照明設計事務所 代表）
- ・委員 他 14名（東京メトロ）

【コンペスケジュール】

登録受付期間：2015年10月28日（水）～2015年12月22日（火）17時まで

提出期限：2016年1月6日（水）正午まで（必着）

審査結果発表：一次審査 2016年2月中旬（コンペ公式ホームページ上で発表）

二次審査 2016年4月中旬（コンペ公式ホームページ等で発表）

（一次審査通過者は、二次審査にて公開プレゼンテーションを実施頂くことを予定しております。）

【お問い合わせ先】

東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ事務局（受付時間：平日9時～17時）

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-30-8

info@tokyometro-competition.jp

コンペ公式ホームページ：<http://tokyometro-competition.jp>

（コンペ公式ホームページは東京メトロの公式ホームページ：<http://www.tokyometro.jp/index.html>からでもアクセスが可能です。）

「東京メトロ 銀座線 ビジネスエリア 駅デザインコンペ」

【幻のホーム活用アイデア部門】 概要

【提案対象】

東京メトロ銀座線 新橋駅「幻のホーム」

【提案課題】

新橋駅・幻のホームを活用するアイデアの提案

【応募資格】

東京メトロの要望に応じて、速やかに東京都心部に来ることができ、かつ日本語で対応できる態勢を整えている者

※複数名(個人または法人等)によるグループとして応募することも可能です。その場合は、代表者を1名定め、その他を共同制作者として下さい。

※1グループは3人までとします。

※年齢、国籍、資格、経験等は問いません。

※審査委員、審査委員が主宰または役員・顧問として関係する団体等に所属する者及び東京メトロ(グループ会社を含む)に勤務する者は応募できません。

※当部門の応募は1人(1グループ)につき2作品まで可能とし、複数作品を応募する際は、作品ごとの登録・応募が必要です。

【申込・提出方法】

下記のお問い合わせ先に記載されているコンペ公式ホームページ上にて必ず事前登録してください。また、作品の提出方法等についてもコンペ公式ホームページ上の募集要項をご確認ください。

【申込開始時期】

2015年10月28日(水)

【賞金】

・優秀賞(1~2点): 10万円

・入選(数点): 5万円

※優秀賞には上記賞金のほか副賞として賞品があります。

※賞金にかかる税金は入賞者に負担していただきます。

【審査委員会】

- ・委員長 山村 明義 (東京メトロ 専務取締役・鉄道本部長)
- ・副委員長 紺野 登 (多摩大学大学院教授 兼 知識イノベーション研究所 代表)
- ・副委員長 野焼 計史 (東京メトロ 取締役・改良建設部長・工務部担当)
- ・委員 松下 美紀 (松下美紀照明設計事務所 代表)
- ・委員 他14名 (東京メトロ)

【コンペスケジュール】

登録受付期間:2015年10月28日(水)~2015年12月22日(火)17時まで

提出期限:2016年1月6日(水)正午まで(必着)

審査結果発表:一次審査 2016年2月中旬(コンペ公式ホームページ上で発表)

二次審査 2016年4月中旬(コンペ公式ホームページ等で発表)

(一次審査通過者には、提案作品に対する質疑事項等をお送りさせて頂くことがあります。)

【お問い合わせ先】

東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ事務局 (受付時間:平日9時~17時)

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-30-8

info@tokyometro-competition.jp

コンペ公式ホームページ: <http://tokyometro-competition.jp>

(コンペ公式ホームページは東京メトロの公式ホームページ: <http://www.tokyometro.jp/index.html> からでもアクセスが可能です。)

(参考) 新橋駅「幻のホーム」の歴史

東京メトロ銀座線の新橋駅には、70年以上も前にわずか8ヵ月間だけ使用されていた「幻のホーム」と呼ばれる場所が存在します。

銀座線は、東京メトロの前身である帝都高速度交通営団のさらに前、「東京地下鉄道」と「東京高速鉄道」の2つの事業者により建設、運営されていました。

1927年(昭和2年)、早川徳次(はやかわのりつぐ)が率いる「東京地下鉄道」が東洋初の地下鉄として浅草～上野間を開業しました。その後、1934年(昭和9年)に上野から新橋まで延伸したときにつくられたのが、現在の新橋駅です。

一方、1939年(昭和14年)1月、「東京高速鉄道」が新橋～渋谷間を開業しましたが、両者間で直通運転に向けた協議が調わず、将来の計画に備えて折返し用に作られた新橋駅を仮駅とし営業開始しました。これにより事業者が異なる2つの新橋駅が並列して存在していました。

その後、両者間で直通運転に向けた協議を重ね、同年9月に「東京地下鉄道」側の新橋駅に「東京高速鉄道」が接続しました。これにより、「東京高速鉄道」の新橋駅は閉鎖され、「幻のホーム」となりました。

現在は、日常的に一般公開されることはなく、駅関係諸室や夜間の留置線として使用されていますが、壁面のタイルで描かれた右横書きの駅名やアーチ型の柱などが当時のまま残されています。

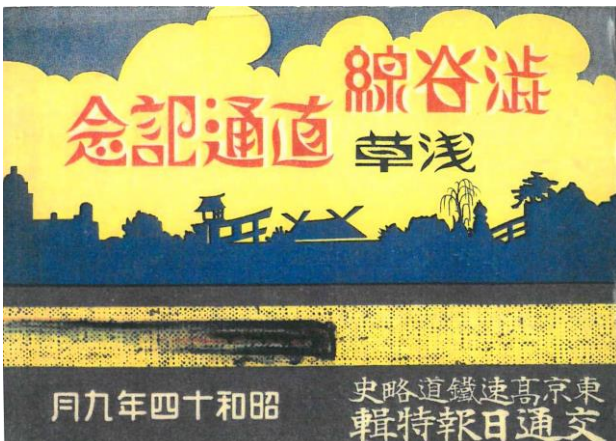
1939年(昭和14年)当時の幻のホーム



1939年(昭和14年)当時の幻のホーム



1939年(昭和14年)当時の新橋駅接続の広告



1939年(昭和14年)当時の幻のホーム

